Obstructions to deforming degenerate curves on a scroll

那須 弘和

(東海大学 理学部 情報数理学科)

2011年9月30日

日本数学会 2011年度秋季総合分科会 (信州大学)

Mumfordの非被約成分(pathology)

射影多様体Vに対し,V内の非特異連結曲線のHilbert scheme を $Hilb^{sc}V$ で表す.

例 1. Sは非特異3次曲面, $E \subset S$ は直線, hはSの超平面切断.

$$C \in |4h + 2E| \subset S \subset \mathbb{P}^3$$
.

曲線Cのパラメータ空間Wは56次元. 一方 $h^0(N_{C/\mathbb{P}^3})=57$.

定理 2. [Mumford'62] $\operatorname{Hilb}^{sc}\mathbb{P}^3$ はWを下部集合とする generically non-reduced な既約成分を持つ.

Mumfordの例の一般化

Mumfordの \mathbb{P}^3 に対する例を多くのuniruled 3-fold Vへ一般化.

定理 3. [Mukai-N,2010] 非特異3次元多様体Vが次の2条件を満たすなら, $\mathrm{Hilb}^{sc}V$ は $generically\ non-reduced$ な既約成分 \tilde{W} を持つ:

- (A) V は有理曲線 $E\simeq \mathbb{P}^1\subset V$ とその変形で覆われる. (よって法東 $N_{E/V}$ は大域切断で生成.)
- (B) $V \supset S \supset E$ なる非特異曲面S が存在し $(E^2)_S = -1$ かつ $H^1(N_{S/V}) = p_q(S) = 0$.

例

例 4. $E \subset S \subset V$ が次の場合, 定理の条件(A),(B)が成立.

- (1) V は Fanoで $-K_V = H + H'$ (H, H' は共に ample). $S \in |H|$ は非特異元, E はS 上の(-1)- \mathbb{P}^1 . (e.g. cubic 3-fold $V_3 \subset \mathbb{P}^4$)
- (2) V は \mathbb{P}^1 -東で底曲面F は $p_g = 0$. S はF と非同型な非特異有理切断. E は $S \to F$ のファイバー. (e.g. cubic scroll $\mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^2 \subset \mathbb{P}^5$)

 $S \perp o$ 例外曲線 $E \simeq \mathbb{P}^1$ は, 曲線 $C \subset S$ の V における被障害 (obstructed) 一位無限小変形に関係する.

研究の動機

 $V \subset \mathbb{P}^n$ は射影多様体, $S \subset V$ は超平面切断, $C \subset S$ は曲線, $E \subset S$ は例外因子とする.

問題 **5.** $\dim V \ge 4$ のとき, 上の $C, E \subset S \subset V$ に対し, Mumfordの例と同様に $C \cap V$ 上の変形が障害を受けるような例は存在するか?

次の設定のもとで考察した.

主結果

定理 **6.** $C \subset \mathbb{P}^n$ $(n \geq 2)$ は非特異曲線でもって, 爆発 $\pi: S \to \mathbb{P}^n$ の中心 $L = \mathbb{P}^{n-2}$ と交わらないと仮定する. このとき, 逆像 \hat{C} が

- (A) $H^0(\hat{C}, N_{\hat{C}/V}) \to H^0(\hat{C}, N_{S/V}|_{\hat{C}})$ が全射的
- (B) $H^1(S, N_{S/V}(3E)) \to H^1(\hat{C}, N_{S/V}|_{\hat{C}})$ が単射的

を満たすならば, $\hat{C} \subset S$ はVにおいて2位変形にリフトしない1位無限小変形を持つ.

例

例 7. \mathbb{P}^n 内の超曲面 Q_i $(1 \le i \le n-1)$ の完全交叉

$$C = Q_1 \cap \cdots \cap Q_{n-1} \subset \mathbb{P}^n$$

は, $\deg Q_i \geq 5 \ (\forall i)$ のとき, 定理の条件(A),(B)を満たす.

注意 8. [n=2の場合] 平面5次曲線 $C \subset \mathbb{P}^2$ の外点 $p \in \mathbb{P}^2 \setminus C$ からの射影

$$\pi_p:C o \mathbb{P}^1$$

は正則写像として, 被障害変形を持つ (赤堀・難波). 従って, Cのグラフ $\Gamma \subset V = \mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^2$ が被障害変形を持つ.

カップ積と開多様体の変形(証明)

部分多様体 $X \subset Y$ の変形において,1位無限小変形 $\tilde{X} \subset Y \times \operatorname{Spec} k[t]/(t^2)$ は,大域切断 $\alpha \in H^0(X, N_{X/Y})$ に対応し,2位変形へのリフト障害は,カップ積の2次形式 $\alpha^2 (= \alpha \cup \alpha) \in H^1(X, N_{X/Y})$ に等しい.

定理は次の補題から導かれる.

補題 **9.** 定理の $E \subset S \subset V$ に対し, 開多様体を $S^{\circ} := S \setminus E$, $V^{\circ} := V \setminus E$ により定める. このとき, カップ積写像

$$H^0(S^{\circ}, N_{S^{\circ}/V^{\circ}}) \longrightarrow H^1(S^{\circ}, N_{S^{\circ}/V^{\circ}})$$

の $H^0(N_{S/V}(E))\setminus H^0(S,N_{S/V})$ への制限は単射. 特に S° は V° において, 非障害変形を持つ.